

# 医療法人徳洲会 茅ヶ崎徳洲会総合病院 消化器内科

【住所】神奈川県茅ヶ崎市幸町14-1 【病院長】亀井 徹正 先生 【病床数】419床  
 【検査・治療数(平成22年度)】上部消化管内視鏡検査 5,739件、下部消化管内視鏡検査 2,463件、ERCP 441件、  
 胆道鏡 9件、ESD 82件、内視鏡的消化管止血術 243件、超音波内視鏡検査 134件  
 【内視鏡設備】内視鏡システム 5台、上部用スコープ 12本、下部用スコープ 10本、十二指腸用 3本  
 【スタッフ】医師 9名、看護師 6名(うち内視鏡技師3名)、洗浄スタッフ 3名、事務 3名



## 機能強化された新病院オープンに向けて 最新の内視鏡治療を積極的に導入

### 高度先進医療を地域に提供するため 機能強化された新病院が2012年にオープン

茅ヶ崎徳洲会総合病院は、1980年6月に徳洲会8番目の病院として湘南茅ヶ崎の地に開院して以来、急病・救急医療を中心に発展してきました。温暖で風光明媚な湘南の地にあり、湘南地区の中核病院として機能しています。24時間365日、年中無休で様々な疾患の救急を受け入れているため、救急車の搬送は年間6,000件以上になり、その数は年々増加しています。

2012年秋には、地下1階地上10階建て、延べ床面積約1万2千坪の新病院が辻堂駅前(湘南C-X)にオープンする予定で、手術室は12部屋、ICU・HCUを設置し、320列マルチスライスCTなどの最新の医療機器も完備されます。地域の基盤病院としての役割を担うため、周産期医療、集学的がん治療センター、生活習慣病センター、難病センター、さらに遺伝子治療や再生医療などの高度先進医療を視野に入れた高機能病院を目指しています。



内視鏡センター センター長  
原田 英明 先生

### 疾患の早期発見と早期治療を目指し 新しい技術を積極的に導入

同院の内視鏡センターでは、現センター長である原田英明先生が2009年に赴任されて以来、内視鏡検査数は年間で1.5倍、内視鏡治療では約2倍に症例数が増加しています。原田先生は、「救急搬送の中でも内視鏡による処置が必要な患者様が多く、緊急内視鏡止血だけでも年間250件を超えます。地域的に胆管炎も多いので、ERCPについても24時間いつでも施行できる体制を取っています」とご説明されました。通常の検査や治療についても、近隣施設から早期癌の治療目的で紹介されるケースが年々増加しており、これも症例数増加の一因となっています。原田先生は、「早期発見のために、上部・下部全ての検査でNBI搭載のスコープを使用しています。また総検査数の約9割で拡大内視鏡を使用し、疾患の早期発見と早期治療に努めています」とお話になりました。近年では早期食道癌の発見率が上昇し、確実に効果を上げているそうです。また湘南地区は胆管結石症例が多く、2cm以上の巨大結石症例も少なくないという特徴があります。従来はESWLによる結石破碎を行っていましたが、手技時間が長く完全に破碎しきれないケースもあったため、最近では経口胆道鏡の一つとして発売されたSpyGlassを導入し、ホルミウムヤグレーザーを使って直視化で破碎する胆管結石治療を行っています。この方法で2例を施行し、大きな成果をあげておられるそうです。原田先生は、「今後はこのSpyGlassを活用し、結石治療だけでなく直視化生検による組織診断など、臨床上で有効活用していきたい」とお話になりました。新病院オープンに向けて、同センターではNBIや拡大内視鏡スコープの本数を増やすほか、ダブルバルーン小腸内視鏡の導入も予定されており、さらなる診断能向上と先進的な治療内視鏡を強化していく予定です。

▶ページへつづく



## 医師とスタッフが緊密に連携したチーム医療で徹底したリスクマネジメントを実践

ESDやERCPなどの高度な内視鏡治療を数多く行っている消化器内科では、医師と看護師や内視鏡技師のコメディカルスタッフが連携して診療にあたるチーム医療を実践されています。スタッフは検査と治療の2チームに分かれ、まずはルーチン検査で基本的な内視鏡関連の知識や経験を積んでから治療チームに移行するチーム編成になっています。内視鏡技師で内視鏡副主任の渡辺桐子さんは、「医師の方針や日本消化器内視鏡技師会看護セミナーで発表されているクリニカルラダー制度を導入する準備を整えている段階にあり、個々の習熟度に合わせて段階別に目標を設定して研修や教育を行っています」とお話になりました。

同院では患者様の苦痛軽減と検査ベッドの回転数を上げるためほぼ全例でプロポフォルによるセデーション下で検査を行っています。術中の患者管理や術後の覚醒状況の確認など、看護スタッフが担う役割は非常に大きくなっています。原田先生は、「各検査室に1名ずつ看護師がついてバイタルチェックを行ってくれるので、医師は安心して手技に集中できます。術後のリカバリーも患者様の状態に合わせてしっかりケアしてもらっていますので、安全に検査や治療を行えています」とおっしゃいました。2010年10月には洗浄履歴管理システム搭載のスコープ洗浄機を3台導入し、また今年4月からMEを配置して各種物品の定数管理を行うなど、さらにリスクマネジメントに力を入れているそうです。原田先生は、「現在当院ではほとんどの内視鏡処置具がディスプレイ化されていますが、これは患者間の交差感染を防止するだけでなく、処置具のパフォーマンスの劣化を心配することなく安心して手技を行える点でも有用だと思います。安全で確実な診療を心がけているおかげで症例数も多いので、コスト面でもあまり影響はありません」とお話になりました。



内視鏡検査室



リカバリールーム



履歴管理システムを搭載したスコープ洗浄検査室



カンファレンスルーム

## 幅広い症例を並行して経験することで短期間で総合的なスキルが身につく研修システム

通常の内視鏡検査に加え幅広い治療内視鏡も行っている消化器内科は、研修医にとって短期間で多くのスキルを身につけられる教育の場でもあります。後期研修医は上級医師の指導のもと上部・下部内視鏡検査、ERCPの基本を並行して経験し、約1年でEMR、ポリペクトミー、胆道ステント留置や胆道結石除去までの手技を行えるレベルまで技術を向上できます。また、徳洲会グループは離島・僻地医療に積極的に取り組んでいますが、上部・下部内視鏡検査が習得できた時点でこの取り組みへ参加することになり、毎週もしくは隔週で各地へ医療支援のため派遣されています。原田先生は、「離島・僻地への医療支援は医師個人にとっても様々な経験ができる良い機会になっています。また新たな取り組みとして、徳洲会グループ内で当院を含めた岸和田徳洲会病院、札幌東徳洲会病院、福岡徳洲会病院の4施設で「Endo Club」という内視鏡関連組織を設立しました。ここでは後期研修医が3年の研修期間の中で4つの病院を3～4ヶ月ずつのスパんで研修を受けることができます。それぞれ専門的な分野で最新の内視鏡診療を行っている施設ですので、多くの症例を経験しながら実践的なスキルを習得できる、大変魅力的な企画だと思います」とお話になりました。この組織は昨年発足して現在希望者を募っているところで、いよいよ来年から研修期間がスタートするそうです。

最後に原田先生から、「新病院オープンに伴い、ここは内視鏡センターとして機能を強化し新たなスタートを切ります。手術室並みの環境を整えた準クリーン室の治療内視鏡室も配備されますので、これまで以上に安全な環境でより先進的な内視鏡治療が患者様に提供できるようになります。今後もスタッフと連携したチーム医療を実践し、疾患の早期発見と早期治療をモットーに地域医療に貢献していきたいです」と抱負を語っていただきました。



消化器内科のみなさん